

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1170700163		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	岩槻ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県さいたま市岩槻区飯塚1280-3		
自己評価作成日	令和6年2月12日	評価結果市町村受理日	令和6年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和6年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりが今何を必要としているのかに気づき、その人らしく自由で楽しく安心して清潔な暮らしを送っていただけるよう支援する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・地域との連携、家族とのコミュニケーション作りに力を注ぎ、民生委員や家族が参加した新年会や運営推進会議などが開催され、外部の方々からの意見や提案を重視することで事業所のサービスの質の向上に努められている。また、毎月行事を設けて、職員もその実施に加わり、入居者それぞれが喜んで生活されるよう支援に取り組まれている。  
 ・運営推進会議については、通常の報告会に加えて新年会を開催し、事業所への理解に努められ、参加者の家族、地域包括支援センター職員や民生委員の方からも意見や提案をいただき、事業所の運営に反映されている。  
 ・目標達成計画の達成状況についても、外部からの意見を伺う機会として運営推進会議のやり方を工夫し、新年会を避難訓練と同時にを行い、積極的に意見・アドバイスをいただいたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はセンターの誰でも見られる場所に貼り出して、常に共有できるようにしている。	自由な暮らしを送られることを大前提に、元気に食べられることを大切に、手間を惜しまず支援がなされている。職員は理念を基にそれぞれの思いを持ち、入居者とのコミュニケーション作りや笑顔を作ることなどに取り組まれている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	センターの行事等に近所の方を呼んで、一緒に参加していただく。又、利用者達は散歩などに出掛けて、挨拶などを交わしている。	地域とのつきあいは当たり前のように行われ、散歩時の挨拶などでコミュニケーションが図られている。地域のボランティアのハーモニカ演奏なども受け入れ、民生委員からの情報を基に様々なつきあいが行われている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターへの協力や、民生委員の方々と事例検討会を実施している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的にはセンターでの行事や日常のことを報告して、また、実際に行事に参加していただいた感想等をいただいている。火災訓練を運営推進会議で行い、実際に避難の状況を見て頂き、消火訓練にも参加していただいている。	運営推進会議については、通常の報告会に加えて新年会を開催し、家族の参加者も多く、事業所への理解が深められている。地域包括支援センター職員や民生委員の方からも意見や提案をいただき、事業所の運営に反映されている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課の方とは生保の利用者について、何かとお世話になっている。	区担当者とは日常的に入居者の要望に対する対応方法や困りごとの相談などが行われている。また、入居者の状態の変化に伴い、医療券やオムツ券の配布申請、生活保護担当との連携なども行われている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、正しい知識を身につけて拘束しない対応をしている。	「職員の思い通りに動かしたい」ではなく「待つ」姿勢を大切に、命を預かっている意識が希薄にならないよう身体拘束に頼らないケアが実践されている。言葉ではなく、常に職員が気を利かせて「動く」という考えが事業所に浸透されている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を作り、常に発信し、実践の見守り等をお互いに行っている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症が進むことで必要になることを学び、実際に社会保険労務士の方との連携もさせてもらった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明し、理解していただいた上で、契約等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を開催し、いただいた意見を実行している。大型テーマパーク小旅行の実行。	入居者からの申し出は現場から管理者に報告され、皆で共有し対応されている。また、家族からは「往診の結果が知りたい」、「職員の顔と名前が知りたい」などの意見が出され、手書きの手紙などを用いてお応えするなど取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りの時に意見を出してもらっている。	職員間では自分の担当ユニット以外についても情報共有が図られ、申し送りも丁寧に行われている。職員からは「こうしたらどうか」などの意見・提案が出され、管理者もそれらを前向きに捉えてアドバイスを送るなどの対応がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が足りていない状況の中、なかなか満足していく職場環境には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々実践、指導をして、機会があれば研修へも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社内でのネットワークはできている。在支関係での活動からのネットワークは実践している。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずアセスメントを行い、本人からの気持ちを探っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけでなく、家族とも話をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との会話に基づいて、今でしょ！というものを導入している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割をもち、お互いのできることは協力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が協力できることは遠慮せずやっていたらいい。みんなで支えあう。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力は必要ではあるが、実施できている。	これまでの生活環境を続けていただくために、家族にも協力いただき自宅に外泊するなど、馴染みの関係継続への支援が行われている。また、昔からの友人が定期的に訪ねて来られ、職員もつながりが継続されるよう対応されている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置、利用者の行動を見ながら、孤立させない支援をしている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなった後でもご家族が何かと訪ねてきてくれる。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	しぐさ、動き、言葉などで気持ちを把握しよう努めている。声かけの反応で理解している。	入居者との信頼関係を築くことを最優先に、一人ひとりと接する時間を多く取り、「私を頼っていいよ」という気持ちになられるよう支援がなされている。また、現場では入居者の言動や様子を観察することで思いや意向の把握に努められている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から出た言葉や家族との話の中で把握できている。(アセスメント)	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調であったり、話し方などで現状の把握はできている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの課題は本人の言動やご家族からの聞き取りで見つけ出し、楽しみや安心な生活に向かった計画を作成している。大型テーマパークへ行って、思い切り楽しむために、リハビリしようとか、しっかり食べようとか、薬は飲みましょう！	入居者や家族の思いや望まれていることなどを十分盛り込んだケアプランが作成されている。「〇〇のためにリハビリをしよう」などの具体的な目標とそれらに対するサービス項目についても分かりやすく記載されている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録にケアプランのナンバーを書き込み、実践できたか？見直しが必要か？を考えている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在支、包括で行っている運動教室など、無料で参加できる情報は発信しているが、現状実行には至っていない。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共の運動公園や寺社などに手作りの弁当を持って出かけている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅対応のクリニックへ移行。夜間でも休日でも適切な医療を受けられるようになっている。	かかりつけ医への受診時には職員が付き添い、医師との情報交換が行われ、適切な医療が受けられるよう取り組まれている。緊急時や時間外での対応は、協力医療機関も含めて、近隣の職員が協力するなどの体制が取られている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応になり、直接医師から指示が得られている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず職員が付き添い、内容を把握し、できる限り病院へ出向き、情報をいただいている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で利用者からターミナルの希望があれば、ご家族・医師との話し合いを実施している。(過去にターミナル実践。ご家族の見守り中、息を引き取られた)	終末期や看取りに際しては、家族の考えが段階ごとに替わることがあり、管理者だけでなく職員も関わりを持ち、話し合われている。「見慣れた人に囲まれて最期を迎えたい」との入居者や家族の希望にも応えるなど意思も大切にされている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生訓練は年2回ほど。急変の対応は、日々の実践の中で身に付けている。近隣の方との関係づくりに取り組む努力をしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回のセンター職員での訓練は行っている。運営推進委員会の方達とは行っているが、ご近所の方達の参加はない。	運営推進会議で避難訓練の様子を見ていただき、感想も含めた意見を発言いただいている。水害や火災を設定し、昼夜両方の訓練が実施され、周囲の環境を考慮し、特に水害についてはハザードマップの確認、垂直避難の方法も明確にするなど対策マニュアルも作成されている。 災害発生時は職員だけの対応では難しいと想定されることから、地域との協力が得られることも大切とされています。地域の避難訓練等に参加するなどして、お互いの理解を深める取り組みに期待します。

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人生を把握し、その人なりの対応をしている。してもらった事への感謝の言葉、できなかった時の今日はたまたま、不安な時の過剰な声かけはNG。	基本的なプライバシー、入室時のノック、私物に触れる時の声掛けなど、相手の気持ちに合わせて注意が払われている。朝の起床や夜の就寝時間などはそれぞれのペースを大切にすることで、これまでの習慣を尊重した対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかのヒントを出して、そこから選べるような工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や表情などで把握して、その人がしたいように過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きだった色やデザインなどを聞き出して支援する。新しいものもたまには買ったりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングで調理しているため、音や匂いなどで楽しんでいる。味見なども積極的に行っている。	会社からの献立表を基に、入居者の好みなども考慮しながら、現場でアレンジを加えた手作りの食事が提供されている。また、庭先で芋煮会を開いたり、外食を楽しむなど、普段とは違う物を味わっていただく支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられないものは別メニューで出している。トロミを使ったり、大きさを変えたりしながらしっかり食べてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや準備、又は全介助にてケアをしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により時間帯を把握したり、動きや表情などで支援している。	それぞれの意思や気持ちを尊重しながら、トイレでの排泄介助を基本に支援されている。また、入居者の羞恥心やプライドにも気を配り、排泄のリズムを把握し、失敗された時は、新しい洋服をさりげなく用意して着替えていただいている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べる量や時間帯、水分の摂取など工夫している。医師に相談して服薬もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴される方、昼間に入浴を希望される方、その人の希望に合わせている。	出来るだけ入居者の希望に合わせて、入居者それぞれの入浴の準備や入り方などをサポートする支援を大切にされている。入居者の声掛けにも気を配り、拒否された時も安心していただける職員が声をかけるなどの工夫も図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や体調不良時や不眠時などに応じて、自由に休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病歴を知った上で服薬の支援をしている。薬の副作用等も常に勉強している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物やパズル、折り紙、カラオケ、作品作りなどの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や買い物に出かけるレクを実施している。恒例となっている大型テーマパークへの小旅行にはご家族も付き添いやご協力を頂きながら実施している。	大型ショッピングモールや大型テーマパークに出かけられるなど、家族の協力を得ながら、職員も積極的に関わり、入居者にも喜んでいただいている。日常的には散歩や外食、買い物などを楽しまれ、外気に触れることを大切にされている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる人は財布を持っていて、買い物もできている。管理できない方でも職員と確認しながら財布を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からかけて良い人の番号を聞いておいて、本人が希望する時はいつでもかけている。手紙の支援も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく、いつでも開けられる状態にあり、光も風も感じている。	入居者は共用空間に集まって過ごされることが多く、話をしたり、パズルを楽しまれたり、洗濯物を片付けたりとそれぞれに居心地よく生活されている。廊下には途中に座れる場所が設けられ、入居者同士や職員と楽しく会話をされる姿も見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があったり、廊下に椅子があり、自由に使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でも使用していた布団や鏡など、いつも使っていたものを持ってきていただいている。	入居者個々の状態やそれぞれの動きに合わせてベッドなどの家具の配置がなされ、安全な生活が送れるよう支援をされている。鏡台やテレビなどは自由に持ち込まれ、携帯電話も使用されるなど、自由な生活を送られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下両サイドの手すりや和室の高さ(小上がり)など、利用者が自分でできるを応援している。		

(別紙4(2))

事業所名: 岩槻ケアセンターそよ風

## 目標達成計画

作成日: 令和6年4月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害発生時は施設職員だけの対応は困難である事が予想され、地域の方々からのご支援やご協力を頂くことが可能となる関係の構築が必要。	地域の皆様に施設の存在を知って頂き、施設自身が地域資源の一部として地域との関わりを持つ。	地域の行事や集まりに参加し、地域の皆様に施設の存在を知って頂くことで協力し合える関係性を構築する。その上で避難訓練の際にご参加いただけるよう呼びかける。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。